

# 大阪ろうさい クロニクル

第17号

発行日  
2026.7.1

## 当院に2台目のダヴィンチXiが 導入されます

副院長 つじ はた まさ お  
辻 畑 正 雄



平素より大阪ろうさい病院が大変お世話になり感謝申し上げます。  
さて、外科的手術は手術支援ロボット『ダヴィンチ』の出現により大きく変貌を遂げたことはい  
うまでもなく、今やロボット支援下手術が標準的手術となっております。患者さまには、出血の  
少ない、機能が温存できる、回復が早い低侵襲な手術治療を提供できます。また術者への身体的・  
精神的負担も軽減できるので、外科医の手術可能年齢が延長すると考えられます。

ロボット支援下手術の普及に伴い、本邦における手術支援ロボットの稼働台数も年々増加して  
おり、ダヴィンチに限って言えば2025年12月時点で稼働台数は850以上となっております。当院では、  
2016年6月にダヴィンチサージカルシステムSiが導入されました。まず泌尿器科において前立腺  
がんに対する根治的前立腺全摘除術を開始し、根治的膀胱全摘除術や腎がんに対する腎部分切除  
術、腎盂尿管移行部狭窄症に対する腎盂形成術が相次いで保険収載され施行してまいりました。  
また消化器外科において2019年1月から直腸がんに対する直腸切除術、2022年6月から結腸がん  
に対する結腸切除術が開始となりました。2023年9月にダヴィンチサージカルシステムSiに代わ  
りXiが導入されました。機能的に進化したXiの導入に伴い、泌尿器科では腎がんに対する根治的  
腎摘除術や腎盂・尿管がんに対する根治的腎尿管全摘除術をロボット支援下で行えるようになり  
ました。また消化器外科も肝がんに対する肝切除術、胃がんに対する胃部分切除・胃全摘術、膵  
がんに対する膵体尾部切除術、そして2025年8月から食

道がんに対して食道切除術も開始となりました。さらに  
婦人科では子宮疾患に対するロボット支援下による子宮  
全摘術施行可能な施設に認定されたことにより、手術件  
数を増やしていきたいと考えております。過去3年間の  
ダヴィンチ支援下手術件数を表にまとめました。外科的  
手術においてロボット支援下手術が標準的な扱いになり、  
婦人科領域疾患の参入に伴い、今後ロボット支援下手術  
がどんどん増えていくと予想できます。当院においても  
ダヴィンチ1台では手術を賄いきれず患者さまの治療に  
支障をきたすと考え、2026年8月に新たにダヴィンチXi  
を導入して2台体制で手術治療を行っていくこととなり  
ました。16室の広い手術室と併せてより充実した手術治  
療ができると思います。これからもより安全でより質の  
高い治療をご提供できるように精進してまいります。

最後に、地域の皆さまにより信頼される病院を目指し  
てまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろし  
くお願い申し上げます。

ダヴィンチ支援下手術件数

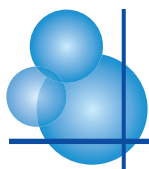
|       |              | 令和5年 | 令和6年 | 令和7年 |
|-------|--------------|------|------|------|
| 外 科   | 食道切除         |      |      | 3    |
|       | 胃切除          | 7    | 11   | 9    |
|       | 噴門部胃切除       |      | 7    | 4    |
|       | 胃全摘          | 1    | 1    | 0    |
|       | 肝切除          | 7    | 8    | 8    |
|       | 膵体尾部切除       |      | 2    | 4    |
|       | 結腸切除         | 67   | 70   | 68   |
|       | 直腸切除         | 44   | 50   | 46   |
|       | 小計           | 126  | 149  | 142  |
| 泌尿器科  | 腎部切          | 19   | 30   | 18   |
|       | 腎摘除          | 1    | 0    | 4    |
|       | 腎尿管全摘        | 3    | 5    | 10   |
|       | 腎盂形成         | 7    | 2    | 2    |
|       | 膀胱全摘         | 11   | 5    | 12   |
|       | 前立腺全摘        | 140  | 131  | 75   |
|       | 小計           | 181  | 173  | 121  |
| 婦 人 科 | 子宮全摘(子宮体癌)   | 0    | 7    | 6    |
|       | 子宮全摘(癌でないもの) |      | 5    | 1    |
|       | 小計           | 0    | 12   | 7    |
| 合 計   |              | 307  | 334  | 270  |

### 基本理念

誠実で質の高い医療を行い、  
すべての方々から選ばれる病院に

### 基本方針

1. 地域と連携し地域に信頼される急性期医療を行います
2. 高度で安全な医療に全力をあげてとりくみます
3. 患者さまの立場と権利を尊重する医療に努めます
4. 勤労者医療を担ってこれを推進します
5. 働きがいのある職場づくりを推進します



## 診療科紹介 糖尿病内科

糖尿病内科部長 ごう や か よ こ  
合 屋 佳 世 子



糖尿病内科は、糖尿病をはじめとする代謝疾患および内分泌疾患を扱う専門診療科で、現在、糖尿病専門医 5 名、内分泌代謝科専門医 2 名が在籍しています。

糖尿病は我が国において患者数が増加し続けている重要な慢性疾患であり、適切な治療と継続的な管理により合併症の発症・進展を予防することが求められています。当科では、最新の医学的知見に基づいた診療を行うとともに、患者さま一人ひとりの生活背景に配慮した個別化医療を実践しています。

対象疾患は、1 型・2 型糖尿病をはじめ、脂質異常症、高尿酸血症、骨粗鬆症、肥満症などの代謝疾患、さらに甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患（クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫）、下垂体疾患など多岐にわたります。これらの疾患は全身管理が必要となるため、当院の強みである多診療科連携を活かし、腎臓内科、循環器内科、眼科、脳神経外科などと密接に協力しながら包括的な診療を行っています。

また、当科では多職種によるチーム医療を重視しており、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師が連携し、患者教育や療養支援に取り組んでいます。特に糖尿病治療においては、食事療法・運動療法・薬物療法を統合的に支援し、患者さまが主体的に治療に取り組めるよう支援体制を整えています。さらに、持続血糖測定機器やインスリンポンプ療法などの先進的医療機器も積極的に導入し、安全で質の高い医療の提供に努めています。

加えて、地域の医療機関との連携を強化し、紹介・逆紹介を通じて切れ目のない医療体制を構築し、急性期から慢性期まで一貫した診療を行い、患者さまが住み慣れた地域で安心して生活を継続できるよう支援しています。

今後も当科は、高度専門医療の提供に加え、地域医療への貢献を通じて信頼される診療科を目指し、さらなる発展に努めてまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



糖尿病内科スタッフ

## 診療科紹介 肝胆膵外科

外科・消化器外科部長 / 肝胆膵外科部長

つじ え まさ のり  
辻 江 正 徳

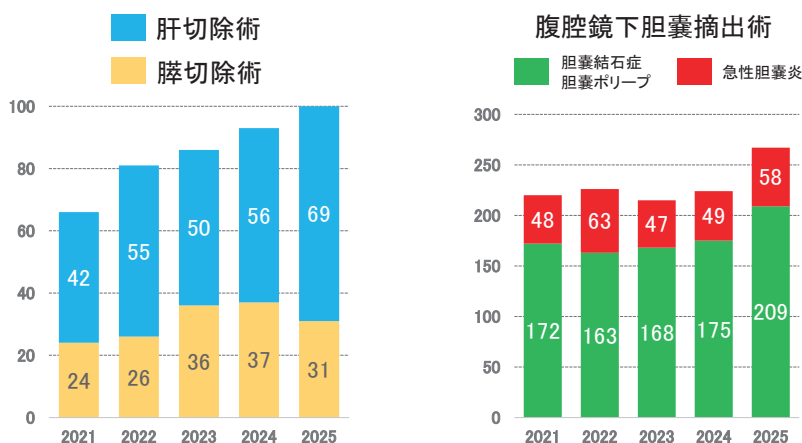


肝胆膵外科グループでは、4名の専門スタッフ(辻江、瀧内、飛鳥井、森)が、肝臓・膵臓・胆道(胆嚢・胆管)疾患に対する外科治療を担当しています。

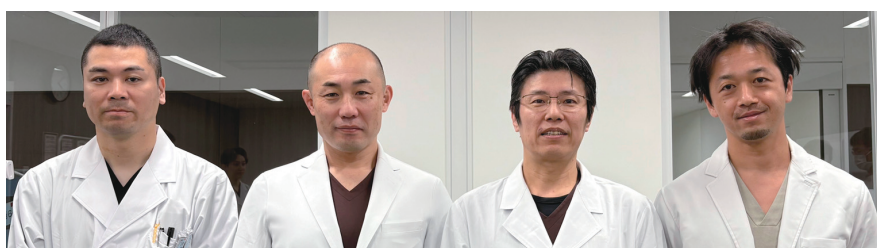
肝がん・膵がん・胆道がんなどの悪性疾患に対する高度な手術はもちろん、胆嚢結石症・胆嚢ポリープ・急性胆嚢炎などの良性疾患に対する手術にも幅広く対応しています。年間手術件数は350件を超え、大阪大学関連病院の中でも有数の症例数を誇ります。これもひとえに、地域の先生方から多くの患者さまをご紹介いただいている賜物であり、この場をお借りして深く感謝申し上げます。お陰様で、大量肝切除術や膵頭十二指腸切除術といった高難度手術も数多く手がけており、日本肝胆膵外科学会より「肝胆膵高度技能専門医修練施設」に認定されています。また、安全性を最優先にしながら、患者さまの身体への負担を軽減する腹腔鏡下手術やロボット支援下手術にも積極的に取り組んでいます。肝切除や膵体尾部切除では、約6割の症例に対して腹腔鏡下手術やロボット支援下手術を実施しています。

肝胆膵領域のがんには、手術のみでは治療が困難な進行がんや難治がんも少なくありません。そのような症例に対しては、手術に加え、薬物療法(抗がん剤・分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害薬など)や放射線療法を組み合わせた集学的治療が重要となります。当グループでは、外科・消化器内科・放射線治療科の専門医が毎週合同カンファレンス(カンサーボード)を開催し、治療が困難な症例に対しても、患者さま一人ひとりにとって最適な治療方針を検討・提供できる体制を整えています。

今後も地域の先生方ならびに患者さまから信頼される診療科であり続けるために、丁寧な説明と、安全で質の高い最適な医療の提供に努めてまいります。引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



肝胆膵外科 専門スタッフ



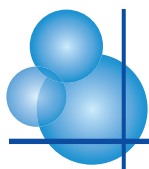
飛鳥井 慶

瀧内 大輔

辻江 正徳

森 総一郎





## 診療科紹介 上部消化管外科

上部消化管外科部長

はま かわ たく や  
浜 川 卓 也



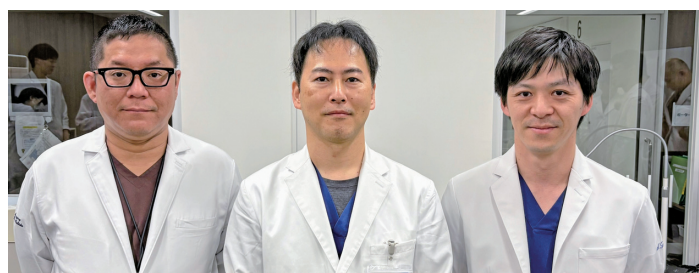
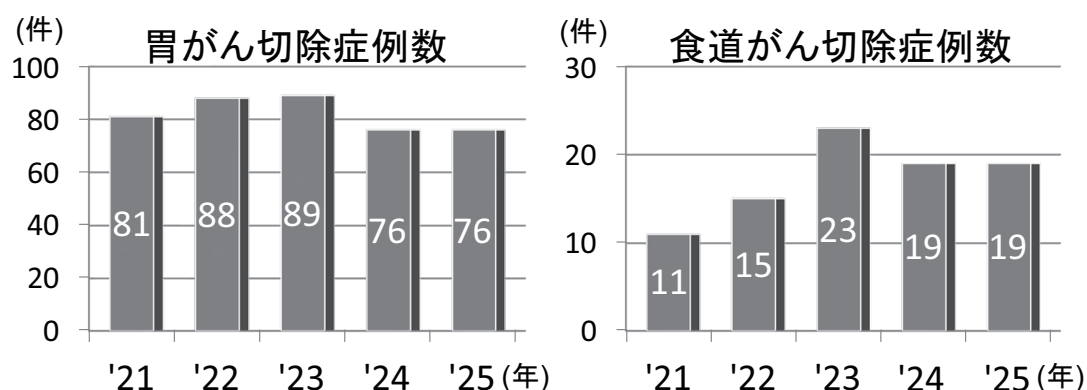
上部消化管外科グループでは食道、胃、十二指腸の疾患を担当しており、胃がん、食道がんの外科手術および抗がん剤治療を中心に診療を行っています。

胃がんはヘリコバクター・ピロリ菌の感染率の低下に伴い減少傾向にありますが、依然として頻度の高いがんで、切除可能な胃がんの治療は手術が中心です。近年では腹腔鏡やロボット支援手術など高度な技術を用いた低侵襲手術が主流となっています。また胃がんに対する薬物療法は近年目覚ましい進歩があり、新規薬剤を含む治療を用いることで切除不能胃がんの治療成績も向上してきており、一部の患者さまでは根治切除が可能となることもあります。

食道がんは進行した状態で見つかることが多く、切除可能進行食道がんに対しては強力な術前化学療法＋手術で治療を行います。手術は消化器外科領域で最も侵襲の大きな手術の1つですが、昨年よりロボット支援手術も導入し、より精密で安全な低侵襲手術を実施しています。

当院は、日本胃癌学会認定施設A(堺市以南の南大阪では4施設)、日本食道学会食道外科専門医認定施設(堺市以南の南大阪では2施設)に認定されており、院内各科とも連携して高度専門的な診療が行える体制にあります。専門資格を有するスタッフによる安全で確実な手術に努めており、年間約80件の胃がん切除、約15～20件の食道がん切除を行っています。また手術を受けられた後も、術後の栄養障害や肺炎などの体調悪化の際には迅速に対応し入院診療を行います。

上部消化管外科グループは浜川、西田、原の3名の専門スタッフで担当しています。一人ひとりの患者さまに分かりやすい丁寧な説明と最適な治療をご提供できるよう心掛けており、当院で治療を受けて良かったと思っていただけるよう熱意をもって診療に取り組んでいます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



西田 謙太郎

浜川 卓也

原 修一郎

## 診療科紹介 下部消化管外科

下部消化管外科部長 **てい 鄭** **みつ 充** **よし 善**



小夏の候、皆さまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

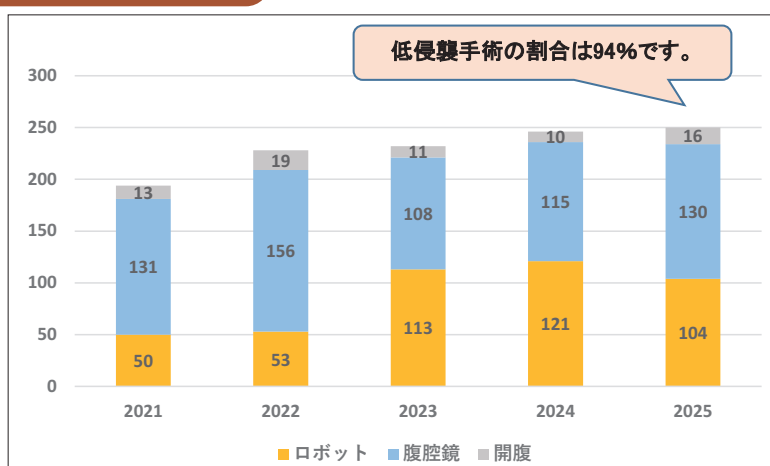
外科・消化器外科は、スタッフ・専攻医合わせて計17名が常勤医として勤務し、堺市圏域の地域がん診療連携拠点病院のひとつとして、日々の診療・手術を担当しております。年間手術数概算値は、全身麻酔手術症例：1,100件（うち400件は悪性腫瘍手術）で、南大阪エリアでも有数の手術数です。これもひとえに地域の先生方からのご紹介の賜物と考えております。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

下部消化管外科は、スタッフ4名で構成され、現在、日本内視鏡外科学会技術認定医3名、ロボット支援手術認定プロクター2名、ダ・ヴィンチサージカルシステム認定医3名が在籍し、全ての大腸がん手術で、ロボット支援手術を第一選択として積極的に施行しております。

当科の特徴として、患者さまの身体的・精神的負担をより軽減するために「より低侵襲な治療をより迅速に提供する」をモットーに掲げております。大腸がんにおいては、2023年以降、腹腔鏡手術・ロボット支援手術などの低侵襲手術の割合が90%以上、ご紹介いただいてから2週間以内の手術を達成しております。

今後、外科手術はAI・高速通信技術などの次世代テクノロジーと相まって、急速に進歩していきます。最先端の技術を取り入れ、患者さまにとって常に最善の治療を提供できるよう努力してまいります。引き続き大阪ろうさい病院外科・消化器外科をよろしくお願い申し上げます。

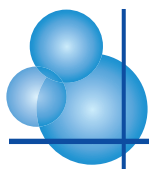
### 大腸がん手術アプローチの年次推移



### ご紹介いただいてから退院まで

|           | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|
| 初診日から入院まで | 11.1日 | 11.5日 | 11.6日 | 12.2日 |
| 手術から退院まで  | 14.2日 | 13.5日 | 13.2日 | 13.5日 |

人工肛門造設しない患者さまでは9日  
人工肛門造設施行した患者さまでは18日です。



## 部門紹介 メディカルサポートセンター

メディカルサポートセンター長 / 副院長 <sup>りょう</sup>良 <sup>もと</sup>本 <sup>かよこ</sup>佳代子



日頃より地域連携いただいております医療者の皆さまには、当院診療へのご理解・ご協力を賜り深謝申し上げます。当院は堺市北部から松原市を中心に地域連携型急性期医療を担当する病院としての機能を拡充してまいりました。この機能を達成するためには円滑な連携が重要で、メディカルサポートセンターの責務は大きいと考えております。今年度目標にしている取り組みについて、ご紹介させていただきます。

### 1. 地域連携促進

かかりつけ医の先生方との連携は、今後もより円滑に行えるよう登録医意見交換会・ご挨拶回りを通じて忌憚のないご意見を賜り、当院と地域の調整を強固にしたいと考えております。また、令和8年度診療報酬改定にて特定機能病院等紹介患者受入加算が新設されました。当院は地域医療支援病院に該当しますので、逆紹介をさせていただいた際には特定機能病院等紹介患者受入加算として60点の加算が可能となります。ご検討賜ればと存じます。

### 2. 病病連携

令和8年度診療報酬改定にて救急患者連携搬送料の見直しが行われました。当院でも救急受け入れ患者さまが増加する中、月12件ほどの下り搬送が発生しております。下り搬送を円滑に行うことが出来ている背景には、近隣の医療機関の皆さまのご理解・ご協力があったからこそだと思っております。副センター長やセンター主任が近隣の医療機関へご挨拶にお伺いし、引き続きの受け入れ要請をお願いすることになるかと存じますが、ご協力よろしくお願い申し上げます。

### 3. 入退院支援

患者さまの高齢化や平均在院日数の短縮に伴い、入院早期より入退院支援に対する介入の必要性が高まっております。当院では、入院前に入院時支援として担当ケアマネージャーや介入中のサービスについて確認、入院後は病状を踏まえ、患者さま・ご家族のご意向を確認しながら退院後に適切な環境で療養を継続いただけるよう支援しております。地域包括ケアシステムの構築に伴い、住み慣れた地域で療養を希望される患者さまも増加しております。通院が困難になった場合、かかりつけ医の先生方には訪問診療・往診でのご対応をお願いすることもございます。当院の入退院支援が円滑であることに感謝申し上げますとともに、引き続きの連携・ご支援をお願い申し上げます。

以上の目標を掲げ取り組んでいく所存です。まだまだ、達成できていない責務が山積しており、本目標の達成で終わることなく順次取り組んでまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



## 部門紹介 看護部

### 大阪ろうさい病院を支える ボランティアの皆さまの活躍

(左) がんセンター看護師長 おくだ 奥田 こ ゆり子  
(右) ICU看護師長 おかもと 岡本 あきこ 暁子



大阪ろうさい病院では、30名を超えるボランティアの皆さまが登録されており、毎日交代で数名ずつ来院し、院内でさまざまな活動に取り組んでくださっています。主な活動は、外来患者さまへの院内案内や受診手続きのお手伝いをはじめ、季節行事の支援、ものづくり活動の補助、事務作業の支援、散髪など多岐にわたります。病院を利用される方々にとって、安心して受診していただける環境づくりに大きく貢献されている存在です。

なかでも印象的なのは、ピンクのエプロンを身に着けた皆さまが、外来を受診される多くの患者さまに丁寧に声をかけ、必要な場所へ案内してくださっている姿です。初めて来院される方や高齢の患者さまにとって、病院内で目的の場所を見つけることは決して簡単ではありません。そうした中で、あたたかく寄り添いながら案内してくださることで、不安や戸惑いが和らぎ、安心して受診していただいています。

実際に皆さまの活動によって、患者さまの「迷ってしまう」場面が少なくなり、円滑な受診支援にもつながっています。また、職員にとっても、患者さま対応をきめ細やかに支えていただけることは大変心強く、日々の診療や業務を進めるうえで大きな助けとなっています。

ボランティアで散髪をしてくださる方もおり、長く入院せざるを得ない患者さまの中には、散髪を心待ちにしておられる方もたくさんいらっしゃいます。

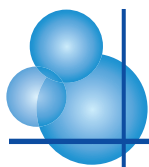
皆さまの活動は、単なる業務支援にとどまらず、病院全体の温かさや安心感を形づくる大切な力です。大阪ろうさい病院は、こうした地域の皆さまの善意に支えられながら、患者さまに寄り添う医療の実現を目指しています。今後もボランティアの皆さまへの感謝を胸に、その力を病院づくりに生かしていきたいと考えております。



ボランティアの皆さま



ボランティア総会  
「認知機能低下のある方との接し方」研修をうけて



## 部門紹介 看護部

### 看護助手活動の紹介

東7階病棟看護師長 はしもとともこ  
橋本智子



大阪ろうさい病院看護部では、『真心をもって質の高い看護をすべての方々のために』という看護部理念に基づき、急性期医療の充実と安全な看護の推進に取り組んでいます。看護職員は看護師以外に日中の補助業務を行う「看護助手」と、夜間の補助業務を行う「ナイトサポーター」と呼ばれる看護補助者が勤務しており、今回は看護助手についてお話しします。

当院では現在20～60代の看護助手が約40名勤務しており、入院案内や日常生活援助、患者搬送や環境整備など多岐にわたる看護のサポート業務を担っています。看護師と連携することで患者さまが安心して治療に専念できる環境づくりを行い、チーム医療の質向上に貢献しています。また、看護部では、看護助手がやりがいを持って安全に働き続けられるよう「看護補助者支援委員会」を中心に、教育体制の整備や業務の見直しに取り組んでいます。未経験の方でも安心して業務に携われるよう業務時間内に研修を実施し、現場での不安や課題に寄り添いながら支援を行い、「初めて医療に関わる」という方でも安心してスタートできるよう努めています。さらに個々のライフスタイルに合わせて勤務できるようサポートしています。看護師と協力しながらチームで患者さまを支えることで、療養生活を最も身近で支える大切な存在として患者さまから感謝される場面も多く、大きなやりがいを感じられる仕事です。実際に未経験からスタートし、長く活躍しているスタッフも多数在籍しています。

急性期病院における具体的な業務としては、食事や清潔ケア、環境整備などを通して、患者さまが安心して治療に専念できる環境づくりに日々関わっています。看護助手一人ひとりの気づきや関わりが、患者さまの安心や回復を支える力となっています。これからも、看護助手が専門職として誇りを持ち、その力を十分に発揮できる環境づくりに努めてまいります。



酸素・吸引準備など術後の環境調整や患者搬送を実施する東7階病棟の看護助手3名

独立行政法人  
労働者健康安全機構 **大阪ろうさい病院**  
日本医療機能評価機構認定病院  
地域がん診療連携拠点病院  
地域医療支援病院

〒591-8025  
大阪府堺市北区長曾根町1179-3  
TEL 072-252-3561(代表)  
072-255-8076(メディカルサポートセンター)  
FAX 072-255-8203(メディカルサポートセンター)  
<https://www.osakah.johas.go.jp/>



(病院HP)